
開拓

夕焼け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

開拓

【Nコード】

N5550N

【作者名】

夕焼け

【あらすじ】

結局のところ、許すか許さないかは「相手が許されるに値するか、値しないか」じゃなく、自分の側の問題なんだ。

小さい頃、よく親父の財布から小銭を盗んでは、顔がサッカーボールみたいにパンパンに腫れるまでぶん殴られたりした。

悪い事をしてるって自分で分かっちゃいるんだけど、何度殴られても、改心しようって気にはならなかった。

だからすぐ怒られた事も忘れて、また親父の財布から小銭を盗んではぶん殴られを繰り返してた。

小学校4年の時、俺はお袋のへそくり用の財布から1万円盗んだ。

数日経ってお袋は「今日の夕飯何がいい？」って聞くのと同じような声のトーンで「ねえ遠、わたしの財布から1万円抜いた？」と、俺に言った。

特に咎めるような顔でも声でもなく「ただ疑問に思ったから聞いた」という風だった。

俺は絶対ぶっ殺される！と思って「取ってないよ」と言おうとした。

でも、全く怒るそぶりも見せないお袋に、何かただならぬものを感じて「うん、取った」とつい正直に言っちゃった。

そうしたらお袋は「そう」とだけ言った。

俺は自分の部屋に戻ってもドキドキが納まらなくて、むしろもつと
もつと嫌な感じがどんどん湧いてきて、それはなんとも形容しがた
い嫌な感覚で、1万円を支払ってでも取り除いて欲しくなるような
嫌な感覚で、でももう1万円はゲームとお菓子になって消えてて、
だからもつとどうしようもなく、ただお袋の「そう」と言った時の
顔だけが頭にこびりついて、離れなかった。

本気で、心の底から「もうこんな気持ちになるくらいなら、お金な
んていらない」と思った。

無論、俺は本当に学ばない馬鹿な子供だったから、その後も時が経
つたらすっかり忘れて、何度か親父やお袋の金を盗んではフルボツ
コにされた。

でも、あの小4の時のアレがなかったら、俺は最後まで本当の罪悪
感ってものを感じる事は無かったと思う。

あれがあつたおかげで、ある時「こういうのはもつやめにしよう」
と思えるようになったんだ。

盗み癖は簡単には治らなかつたけど、でもそのあと徐々に治ってい
ったのは、小4の時にお袋が「そう」の一言で俺に与えたプレッシ
ヤーの賜物なんだと思う。

叱られて学ぶ事もある。

ぶん殴られてそこで気づいた事もある。

でも、許されて学んだ事もある。

時に、許す事も大事なのだと思う。

相手が、自分にとって命と等しく大切な人であるならば、相手が自分の事を心から大切に思ってくれてるならば、許すことで教えらるる事もあるんだと思う。

叱らなければならぬ場面が辛い。

それはすなわち、許す事で諭せるほどの信頼関係が、そこに無い事の現れだからだ。

俺は、相手を信頼していない、相手は俺を信頼してくれてない。だから叱らねばならない。

無論、許すだけでは成長出来ない場面もある。

許されすぎて、甘やかされすぎて、酷い甘ったれに育っちゃう事もある。

でも、それは、お互いの信頼関係がないのに、無暗に許して育てちゃったからじゃないかと思う。

お互いの間に、本当の信頼関係があれば、ただ許すだけで相手は学ぶ。

親が子を、そして子が親を本当に深く信頼していたなら、親は子を、ただ許すだけで、子は真つ当に育つ。

そう思う。

どちらかの信頼が欠けてるのに許す事だけをしたら、本当にただの甘えん坊になるだろうけど。

叱る事より、許す事より、まず信頼を築く事をしたい。

正直、自分にはまだまだこれが出来てない。

親や、理屈抜きに分かり合える友達を除いて、ほとんどの人に対してこの「まず信頼を築く」という事が出来てない。

だから怒ったり怒られたりする。

自分の不甲斐無さを本当に恥じ入るばかりだ。

もっと人を尊べる人間になりたいと思う。

人の尊さは問うまでもない。

なのに他者を正しく尊べないのは、己の虚ろさに他ならない。

知人が「自分がデフォルトで人を馬鹿にしてるのは、自分がからっぽいな人間だからだ。あなたは俺に「人を馬鹿にしない事の意義」ばかりを説くけど、俺はそれはよく分かって、俺なりに人を馬鹿にしないために、その根本の原因を辿って、改善を試みようと考えてる。そのために、自分のからっぽさをどうにかする試みをしてる」と語ってくれた。

彼は俺より10個くらい年下で、俺はよく彼に対して上から目線でモノを言うけど、言ってる俺もきくと彼と同じで、自分がからっぽだから人を正しく尊べないんだろう。

目に映る相手が矮小に見えるのは、相手が小さいからじゃなくて、それを映し出す自分の眼球が、「そのようにしか像を映さないからだ。」

自分が小さいから、小さな自分の小さな眼球を通して見る像も、小さく見える。
だから尊べない。

頭でつかちの、お行儀のいい利口な人間にはなりたくないけど、自身でデフォルトに悔いれる範囲くらいは、善処を試みたいと思う。

俺はまだまだケツの穴が小さすぎる。
そのせいで人と無駄に衝突する。

開拓したい。

いや、アナルをじゃなくて。

魂的な意味で。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5550n/>

開拓

2010年10月9日06時01分発行